

新春スペシャルインタビュー

音福士の専従配置で入居者様のQOL向上をめざすアンサンブル大宮

音楽健康福祉士（以下音福士）の資格に興味はあるけれど、実態はどうなんだろう、本当に施設で役立っているのだろうかという声が聞かれます。そこで音福士を4年前に導入し、埼玉県さいたま市の介護付有料老人ホーム「アンサンブル」の3施設にそれぞれ2名ずつ専従配置されているメディカル・ケア・サービス株式会社特定施設事業部副部長の本橋様とアンサンブル大宮の音福士リーダー大西竜也様に弊会の馬場参与がお話を伺いました。



公益社団法人虹の会 馬場参与
介護付き有料老人ホーム アンサンブル大宮 大西音楽健康福祉士様
メディカル・ケア・サービス株式会社特定施設事業部 本橋副部長様

※通常施設内では、防疫対策のためマスク着用を徹底されていますが、撮影時のみ特別にマスクを外して頂きました。

— 御社からはこれまで多くのスタッフの方が、音福士研修を受講頂き誠にありがとうございます。どうして積極的に音福士育成に取り組まれているのか、その背景を教えてください。

多くのご入居者様に共感頂ける“音楽”で生活に“うるおい”を与えてあげたい。

本橋：企業というより私個人としてという所の方が大きいと思います。音楽のジャンルが違って、音楽が嫌いな方はいらっしゃらないと思うんです。施設で色々なレクリエーション年齢や出身、趣味、性別などがマチマチなご入居者様が、共通して何か1つ取りしめるものは何か？と模索してきましたが、なかなか皆で1つの物をなしとげ配置し、音楽を切り口にする事でスタッフとご入居者様がコミュニケーション入居者様の心身の向上やモチベーションの回復に繋がってくるのではないかとご入居者様の生活に“うるおい”を与えてあげたいと思ったということで、より良いサービスを提供する為には、原資をしっかりと確保しないとなりません。ご入居者様にとってプラスになる施設の“売り”が無いと駄目な訳で、音福士が専任でいることでご入居者様に“うるおい”を与えることで、ご家族様からも“あそこに入居させてあげたい”、“あの施設には音楽健康福祉士さんという音楽専門のスタッフさんがいるんだよ”と、口コミが広がれば我々が望む物も得られるので、我々の施設の武器の1つとして活用させて頂いています。

— 音福士の方を専従配置して既に4年経っていますが、どのような評価をされていますか。

“音楽”を介してご入居者様とスタッフ、ご入居者様同士のコミュニケーションが活発化。

本橋：音福士の活動を施設のブログに載せ続けているんですが、先日クラリネットと電子ピアノの演奏会を開いたことをブログで紹介したところ、その内容を見てご身内の入居を決めた方がいました。“ここは音楽健康福祉士の方がいて生の楽器の演奏を提供してくれるんだ。ここに決めよう”と。ご家族様が音楽の教師だったらしく音楽の素晴らしさや音楽がもたらす効果を分かっていたらいいので“自分の大切な肉親はここにお願ひしよう！生の楽器演奏を聞いてもらいたい”という想いで入居に至ったようです。

弊社の音福士は、全員が楽器の演奏をすることができます。作業の空いている時間に演奏をしてくれるので今までお部屋にこもりがちだったご入居者様が音につられてフロアに出てきてくれる。そこでコミュニケーションが発生。お話をしたり、体を動かしたり、次回の「健康王国」（音福士が、日々行っている心音レインボートレーニング活動の施設での名称）にお誘いしたり・・・まさにそこが私が思っているところなんです。音楽は人を引きつけるチカラを持っていて、スタッフがイベントにお誘いしても動かなかった人が、音につられて出てくる

訳ですから。「健康王国」で歌や運動を行った後にご入居者様同士の会話が自然と弾み、ご入居者様間でのコミュニケーション向上にも役立っています。また、音楽があることで音楽を介して話しかけたり、手拍子をしたり・・・スタッフからの“コミュニケーションがとりやすくなる”というのもポイントですよね。

— 御社はこのような介護付有料老人ホームの他にグループホーム施設などがありますが、そちらの音福士の取り組みはいかがですか。

アンサンブル大宮の音福士活動を社内外へ積極的に発信中。

本橋：残念ながら全社的にはまだまだだと思います。特定施設事業部の中では音福士についてしっかり認知されていますが、全社的にはこれからなので社内で縦断的に情報を配信してくれる部署との連携は、おしまないようにしています。音福士の活動を社内報に掲載してもらったり、社内のコミュニケーションサイトで紹介してもらっています。会社のホームページにも掲載してもらい、アンサンブル大宮の音福士から一歩出てゆこうとしています。社内で“ケアに関しての実践例を報告”する場が毎年あり、そこでもアンサンブル大宮の音福士の活動を発表してもらっています。



●MCS社ホームページでの音福士サービスの紹介

— 音福士の資格取得が、御社のリクルートにも好影響を与えたと伺いましたが、どのような影響だったのでしょうか。

スタッフリクルートにも大きく貢献している音福士活動。

本橋：音福士募集の広告は、すごく反応がいいです。“音楽が好きなんだけど、何か仕事に活かせないかな？”



●過去に掲載されたアンサンブル大宮求人広告例

という方は、すごくいると思います。その中には実は介護もやっている（いた）方や、介護に興味がある方がいらっしゃいます。そんな方には介護職としての勤務提案や誘導ができたりしますし、音福士のお手伝いをしてもらうような形で採用させて頂くケースもあります。音福士を配置したことで、介護職へ誘導できる方のエントリーも、間違いなく増えたと思います。

— 介護施設様のSDGs活動にも音福士は貢献できるのではないかとありますが、いかがでしょうか。

音福士活動を通して“住み続けられる”地域づくりの拠点になりたい。

本橋：現状は、コロナ感染の問題もあり、積極的に外へ出てゆくことは難しいですが、終息に向かってくれば、当初行おうとしていた音福士が外に出てゆく活動は、すぐに再開できるのではないかなと思っています。地域の公民館など公の場所を貸して頂き、最初は遊び感覚で来て頂けるような要素を盛り込んだイベントを開催できればいいと思っています。そこから当社の施設のことを知っていただき、ご身内の方やご本人に介護がせまって来た時に“あそこにご相談してみようか”と言って足を運んでくださるような、地域の介護相談窓口的な拠点になれば幸いですね。

— 最後に2022年以降音福士の活動としてどのような事に取り組もうとされているのか教えてください。

グループホームなど自社の他事業形態にも音福士活動を広げてゆきたい。

本橋：私個人で言うと、去年の10月から新しく担当させて頂いている、東京都内の介護付有料老人ホーム「ファミニュー」シリーズの3棟に音福士を配置したいと思っています。また社内に音福士がいるという事をもっと知ってもらう活動は継続していきたいと思っています。コロナ前にはグループホーム所属の方から音福士についての問い合わせもあり、実際に見学にも来てもらいましたが、まだそちらで音福士を配置する話は聞いていません。我々の有料老人ホーム6棟以外の他事業形態の所にも、音福士を兼務でも配置できたらいいなと思っています。

本橋副部長様



新春スペシャルインタビュー **「音福士の専従配置で入居者様の QOL 向上をめざすアンサンブル大宮」**

—まず最初に4年間音福士の活動をやらせて、大西様が感じられる手応えを教えてください。

当初不参加だった方も今では“生活の一環”に。失語症が、改善したケースも。

大西：手応えを大きく感じるというのでは無いですが、徐々に目に見えるものでなく気がつけば良くなったなというのを後で感じるのが多いですね。アンサンブル大宮に入職した時に、ご入居者様の元々の“生活リズム”というのがありました。ここに新しく音福士の色々なプログラムが加わることで“生活リズムが崩される”ことに対して不安に思ったり、嫌だと思ったりもしていました。音楽は嫌いではないが、“やらされてる感じ”が好きではない、自分のペースでやりたいという方がいました。しかし、そういう方も3、4年経つと“今日は参加してみようかな”というのが徐々に増え、今では皆勤賞の方もいます。また、ある方は、私がプログラムをやらない日にずっと待っていてくれたり、もう“生活の一環”になっている



●音福士による心音レインポートレーニングの様

方が、殆どになっています。私の体験以外に他の棟を担当している音福士からは、“失語症”の方に対して週5回歌唱の時間を30分間、1年間続けたところ、“鼻歌を歌う”ようになり、その後“発音して声が出せる”ようになったという報告がありました。会話と歌では脳の働き方が違うので失語症の方は、会話はできなくても“歌う”ことができるようになり、今では少しずつ会話もできるようになったということで私もビックリしています。

その他にピアノを弾きたいという希望があるご入居者様がいらっしゃり、ピアノの練習をマンツーマンで始めたところ、お部屋にとじこもりがちだったのがお部屋から出る時間が増えました。また今までは夜中に目がさめることがありましたが、夜よく眠れるようになり、日夜逆転が元に戻ったという例もありました。

私の担当施設では認知症の方で目の前の人を見ては“犯罪者”呼ばわりしたり、大声を上げることも多く、介護スタッフもお手上げだった方に試しにアロマセラピーを行ってみました。副交感神経を優位にするラベンダーを焚いてみると30分後には口数が減り、1時間後には“うたた寝”するなど随分と落ち着かれました。また難聴の方で補聴器をつけていらっしゃる方がいらっしゃり、その方はカラオケなどの機械の音と補聴器の相性が悪いのか、“何をやっているかわからないので、私は参加しない”とプログラムに加わっていませんでした。そこで施設にあるピアノを弾いてあげるとしっかり聞こえて手拍子もしてくれるなど喜んで頂けたというようなこともありました。

—4年間、ほぼ毎日指導されていると入居者に“マンネリ感”や“飽き”が出てくるのではないかと思います。その辺はどのように対応されているのですか。

常時音福士のアイデアや工夫を加え、指導内容の“鮮度”を保つことで“マンネリ”や“飽き”を無くす。

大西：4年間もやっているとご入居者様の皆さんもクイズコンテンツの答をおぼえている状態ですね。(笑)長く同じ内容のものを使っていますけれども最近はアプローチのしかたを変えています。例えば最初の問題で“北海道で有名なカニは何でしょう”の回答は、“ズワイガニです”となる訳ですが、一回そこで止めて“それでは他に何かあるでしょう”という風に話題を連想ゲームのように広げてゆくと再び“新鮮み”が湧いて参加意欲も高まることに気づきました。

ここだけでなく他の施設でも1年以上やってきた中で、新しいことを始めようということで虹の会さんがやっている“虹のキャラバン”を真似たイベントを考えています。弊社の3施設にいる音福士6名は、皆楽器演奏や歌ができるので、6名が一緒になって生音を使った心音レインポートレーニングを各施設で行ってゆこうかなという計画を立てています。



●音福士による演奏会の様

—以前、大西様は心音レインポートレーニングプログラム実施後に入居者様の反応や変化を記録されて効果の検証に結びつけるとおっしゃっていましたが、その後いかがですか。

弊社の専門担当者と連携して“認知症の方へのリハビリ対策”としてトライ。科学的な効果検証を行ってみたい。

大西：最初は、エピソード集という形でメモ書き程度で始めたのですが、これを機に少し本格的にやってみようと思っています。弊社のアンサンブルシリーズにリハビリ職の方がいますので少しリハビリのやり方に沿ったやり方でやってみようと思っています。我々は、何かをやって結果をもらって、改善してというプロセスがあまりルール化されていないので新たに作ってみたいと思っています。音福士の活動は、“未病”の方をメイン対象にしていますが、この施設にご入居されている方は、殆ど“未病”の段階では無い方が多いです。そこに対するアプローチ法をみつけようかなということで、こうしたら良くなるのではないかと我々の仮説を立て、何をやれば改善されるかというところで「JOYSOUND」の機械を使ったり、プログラムを考えたりというのを本年から半年間かけて実施し、入居者様の“精神状態”と“ADL”が、どのように変わるかを見てゆこう、そのために記録をつけてゆこうというのを今、始めています。

—大西様は、社内の音福士の方達のリーダーとして指導・教育を担当する立場にいます。どのような形で育成をしてゆこうとされているのですか。

無理に入居者様を参加させるのではなく、興味がある所から参加して頂くように指導。定期的なWEBミーティングで音福士の意見交換を行い情報や指導法の共有化を行う。

大西：新しい音福士からよく相談を受けるのは、“なかなか参加してくれない”、“全部のプログラムは参加してくれない”ということですが、その時にアドバイスしているのは毎日“体操・歌・脳トレ”をやるのではなく、曜日ごとに分けて“月曜日は体操。火曜日は脳トレ”という風に、全部は参加しなくて良いので火曜日だけ参加してもらって、特定の興味がある物だけで良いので参加してもらおうような指導をしています。また、弊社には音楽療法士の資格を持つ音福士もいるので、音楽療法士から見た音楽療法のやり方を学ぶ機会を作ると共に3ヵ月に1回WEBでミーティングを行って今後の課題や今置かれている状況での“悩み”などへのアドバイスを行うだけでなく、音福士間の意見交換なども行っています。

新しく音福士を導入する施設には、当初私が出張しその施設やフロアにフィットしそうなプログラムを担当する音福士にアドバイスしてあげ、その後は担当の音福士が、自身の判断で微修正してもらうようにしています。

—今後へ向けて取り組んでいるテーマみたいな物はありますか。

“レクリエーション”的指導法に“リハビリ”的指導法を加えることで“完璧な音福士”作りを目指したい。

大西音楽健康福祉士様

大西：弊社のグループ施設である「ファミニュー」3施設に音福士を配置することは本橋の目標でもあり、私の目標でもあります。私個人としては、音福士はできることがかなり“自由”だと思っているので「アンサンブル」の施設とは少し変えて音福士を育ててみたいと思っています。お互いにいい所を取り合って最終的には完璧な音福士が作れればと思っています。今「アンサンブル」で行っているのは“楽しませるために何かをやる”のが基本。その中で効果検証を行っています。逆に「ファミニュー」は、“効果を目的として尚かつ楽しませる”。やっている事は一緒ですが、優先するものを逆にしてやったらどうなのかなというのを考えています。簡単に言うと、私が今やっているのは“レクリエーション”側の考え方、それに対して“リハビリ”側の考え方という風に分けられますかね。「アンサンブル」は、人数が多いので集団でやっていますが、「ファミニュー」は、人数が少なく個々に見れるので“個別”に重点を置くタイプに育ててゆこうかなと考えています。

本橋様、大西様貴重なご意見をお聞かせ頂き誠にありがとうございました。これからの御社の先進的な音福士の取組みに期待しております。今後ともよろしくお願い致します。

